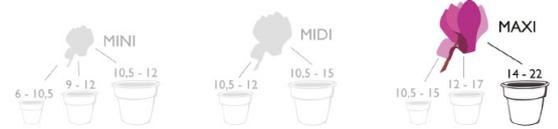




大輪フリンジの栽培アドバイス： カーリー® & フリオラ®



モデルの大輪種では、異なる出荷時期に合わせて遺伝系統を分けております：ラティニア®サクセス®やハリオス®HD（夏から秋にかけての開花）のように中くらいの株サイズに生育するシリーズから、**カーリー®やフリオラ®（秋から冬にかけての開花）**のようにボリュームのある株に生育するシリーズまで取り揃えています。

気温の高い時期には、カーリー®とフリオラ®の生育コントロールが難しい場合があるとの生産者様からのご意見もいくつか頂いております。

こちらでは、最高品質の株へと栽培しやすくするためのヒントをご紹介します。

➤ カーリー®とフリオラ®における 開花時期と栽培計画について

カーリー®とフリオラ®は、生育旺盛で、気候や栽培設備によって日中平均気温（ADT*）を15°C以下に保つことで更に開花がしやすい環境となり、花数も増えます。これよりも気温が高くなってしまえば、開花よりも生育が優先されてしまいます。即ち、これらの品種を冬季に栽培することで、暖房費を抑えられるということです！

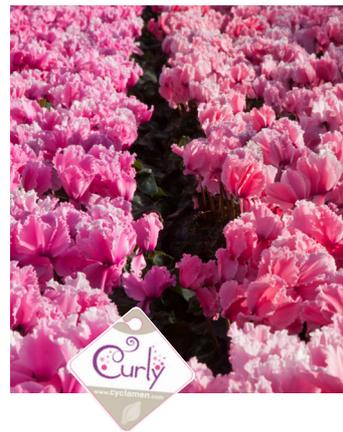
早生性 — 3~5輪開花させるためには：播種後35~37週間、または播種後15週間のプラグ苗移植後20~22週間となります。

栽培計画を立てるには：

- 栽培条件に合わせて、最適な気温を保証できる期間を特定してください。
- ご希望の開花時期を設定し、そこから播種日や移植日を逆算してください。

➤ 最適な鉢サイズ

カーリー®とフリオラ®は、**14cm** からエクストラサイズの**22cm** までの鉢に対応しています。エクストラサイズの場合は、栽培期間が3~5週間ほど長くなります。また、最初に上がってきた花を1~2回摘んでください。



カーリー®とフリオラ®における栽培計画表

| 品種 | 鉢サイズ 直径 Ø (cm) | 栽培期間 (週) | | ADT（一日における平均気温）と栽培段階 | | | | | |
|-----------------------|----------------------|-------------|----------------------------|----------------------|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 播種後 | 35~40 mmの プラグ苗 から | 夏季 | | 秋季 | | 冬季 | |
| | | | | 生育 > 25°C | 開花 0~25°C | 生育 20°~25°C | 開花 15°~20°C | 生育 15°~20°C | 開花 15°~20°C |
| フ リ オ ラ ® | 14 | 36 ~ 38 | 20 | * | | * | | *** | *** |
| | 17(1) | 39 ~ 41 | 23 | * | | * | | *** | *** |
| | 22(1) | 42 ~ 44 | 26 | * | | * | | *** | *** |
| カ ー リ ー ® | 14 | 35 ~ 37 | 20 | * | | ** | ** | *** | *** |
| | 17(1) | 38 ~ 40 | 23 | * | | ** | | *** | *** |
| | 22(1) | 40 ~ 42 | 26 | * | | ** | | *** | *** |

*** 最適
** 少し難しい
* 高い難度

(1) 摘花をお勧めします



> 栽培方法

他のモレル品種と同様、カーリー®とフリオラ®も鉢上げ後には発根期を経なければいけません。

その豊かなボリュームの性質上、栽培においての計画や要因などを管理していただくことによって、生育をコントロールしていただけます。

そのためには、**ストレス**を与えるような栽培方法が必要ですが、**適度**に行ってください！

> 光と温度

設備で温度調節が可能でしたら、夏季の発根期や生育期には平均気温を下げることを最優先してください（18～20℃のADT）。

気温が低い場合、そして、培養土の配合とかん水管理が適切であれば、カーリー®とフリオラ®は、強い光（450 W/m² - 40 000 Lux）と同時に、ある程度までの水分ストレスに耐えることができます。

発根期に平均気温が25℃以上になる暑い地域では、遮光を調節し（300～350 W/m² - 25～30 000 Lux）、株の水分供給を抑えましょう。それによって、根を守り、生育をコントロールできます。

散光させるタイプの遮光装置を強くお勧めします。

> かん水と培養土

暑い地域で遮光を施した栽培では、カーリー®とフリオラ®のかん水を、株の大きさや成長段階を考慮し、**必要な回数に分けて**実施することをお勧めします。ドリッピングかん水システムや薄い底面給水マットなど、ゆっくりと給水していくかん水システムが非常に効果的です。

培養土の中には、適度な水分ストレスを与えるため、より適切な配合があります。毛細根を乾燥から守るため、これらの配合には通常、わずかな割合のクレイやブラックピートモスが混合されています。

> 肥料

鉢上げ後の発根期には、多くの培養土に対して販売店が必要に応じて足すことが可能な元肥をご利用いただくことをお勧めします。14cm 鉢には0.75kg/m³、17cm 以上の鉢では 1kg/m³の分量をお勧めします。

発根期後の肥料として、弊社では、N-NO₃（ppm ; mg/L）を、**1/0.5/3**の比率で使用しています。

ラティニア®サクセス®やハリオス®HDなどのシリーズの場合は、18～20℃で、75～100ppm 施肥しています。それに比べて、株のボリュームの大きなカーリー®やフリオラ®には、栽培条件によって、**N-NO₃を25%まで低下させる（50～75ppm）**必要があります。

> わい化剤

認可されている国では、**プロピコナゾールは成長調整剤**としても使用が可能であり、カーリー®とフリオラ®に対しても良い結果を出しています。生育段階の散布が理想的で、発根期や開花期間中の散布は避けてください。

50～100ppm にて2～3回の散布が必要な場合があります。散布の量、回数、時期等は、製品の濃度や栽培状況にもよって変わってきます。気温は、平均18～20℃を保ってください。

2016年11月、オランダで行われたトライアル



成長調整剤を
散布していないカーリー®

プロピコナゾールを
2回散布したカーリー®

> ボトリチスに対する抵抗性

葉と花弁の組織が厚いため、カーリー®とフリオラ®は**ボトリチスに対する強い抵抗性**を持っています。

こちらの冒頭で、低温で花数を増やす特徴を強調しましたが、気温の低下に伴い、大気中の水分の凝縮から起こる水滴や湿度の上昇などの現象がよく見られます。このような時期に、ボトリチスに対する抵抗性が重要な点になってきます。